平成 24 年度教員研修モデルカリキュラム
開発プログラム報告書

（平成 25 年 3 月）

教科学習に資する言語能力を高める指導力を養成する
教員研修プログラムの開発

―JSL 児童生徒カリキュラムを活用した授業力の養成―

東京学芸大学国際教育センター

連携

墨田区教育委員会

福岡市教育委員会

は じ め に

本報告書は、平成24年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム（ｉ大学と教育委員会の連携・協働による研修カリキュラムの開発事業(大学委嘱)、独立行政法人教員研修センター)受託事業（事業名「教科学習に資する言語能力を高める指導力を養成する教員研修プログラムの開発－JSLカリキュラムを活用した授業力の養成－」）の報告書である。

今日、日本各地の学校では日本語指導を必要とする外国人児童生徒等をはじめとする多文化の子どもを受け入れており、そうした児童生徒を受け入れてきた経験の無い教員、学校、教育委員会では、その指導に困難を来している。しかも、こうした学校は外国人児童生徒が多数在籍する、いわゆる外国人集住地区にある学校にとどまらず、在籍児童生徒数こそ少なくとも、全国の学校でも同様な課題を持つようになっている。

日本の学校は、すべてがこうした「日本語指導を必要とする」児童生徒の受け入れを想定して来たわけでは無く、日本語指導を伴う（配慮する）授業をはじめとして、そこで必要となる授業上の工夫や様々な支援を行うことも、一部を除いて必要では無かった。しかしながら、1990年代に顕在化した南米からの日系人家庭の子どもたちは、こうした日本の学校の現状に大きな変化をもたらしたし、グローバリゼーションの波も相俟って、様々な背景の子どもたちが学校に在籍し、その結果多文化的な様相が日本の学校に出現するようになって今日に至っている。

当然、そこでは児童生徒の質的な変化を踏まえて新しい指導法が用いられなければならない。

本プロジェクトは、学校の多文化的な状況、日本語能力において様々な段階にある児童生徒を受け入れる教員に求められる知見を効果的に伝えるための研修プログラムを、本センターが開発に携わり､その普及に取り組んでいるJSL(Japanese as a Second Language)カリキュラムの考え方に則って開発したものである。

さらに日本語指導の必要な外国人児童生徒等に配慮（注目）した指導法であるJSLカリキュラムは、本プロジェクトの連携先である墨田区が想定したように、実は元々の日本の子どもたち、すなわち日本語母語話者である児童生徒の言語能力の育成にも応用できる側面をもっており、本プロジェクトではこの点も意識的に取り組んでみた。

具体的には、開発に当たって、日本語指導の必要な児童生徒の在籍状況において特徴的な二つの連携先の教育委員会での研修プログラムが、各地の教育委員会においても有効で、企画可能になるよう意識してプログラムの開発に取り組んだが、特に以下のような点を考慮して開発に取り組んだ。

まず、連携先として日本語指導を必要とする児童生徒が比較的少数である墨田区では、日本語指導担当教員を主たる対象とせず、一般教員、管理職を対象とし、こうした児童生徒のみならず、一般の児童生徒にも応用できるような内容でJSLカリキュラムの考え方、児童生徒理解、授業方法等の研修の企画、実施に取り組んだ。

他方、こうした児童生徒が比較的多数で、しかも文化的に多様な背景を持つ形で学校に在籍する福岡市においては、市内の日本語指導担当教員を主たる対象として、JSLカリキュラムへの基本的な理解から具体的な指導にとどまらず、学校づくり、地域づくりに至るまでの内容を踏まえて研修を企画した。

さらに、企画した研修の後に、参加者からのレスポンスを元にその評価を実施し、次に企画される研修内容の検討を行うなど、参加者の研修への需要を反映させるような取り組みを行った。

この開発プログラムは、以上のような形で約1年にわたって、数次（墨田区5回－3日間、福岡市3回、本学での企画3回）の研修を行い、最終的には墨田区教育委員会、福岡市教育委員会両者が、教育委員会内の実態に合わせて次年度（平成25年度）の研修計画を策定し、具体案を提出するまでに至った。

以下、第Ⅰ部では墨田区及び福岡市において実施した具体的なプログラムとそれを元に作成された次年度（平成25年度）における研修計画案、さらに今後の課題（総括）を示した。

第Ⅱ部においては、資料として本連携－協働開発の記録を掲載した。

最後に、このプログラム開発事業の実施においては、多忙中にもかかわらず連携を引き受けてくださった墨田区教育委員会及び福岡市教育委員会の関係各位、実習参加教員各位、さらに本連携プログラムの実施において機会を与えて下さった独立行政法人教員研修センターをはじめ、関係各位に感謝の意を表します。

平成25年3月20日

東京学芸大学国際教育センター　吉谷武志

連携・協働研究　委員名簿

東京学芸大学国際教育研究センター

佐　藤　郡　衛	教　授	松　井　智　子	教　授
吉　谷　武　志	教　授	菅　原　雅　枝	准教授
見　世　千賀子	准教授	矢　崎　弥生子	日本語指導員（教務補佐）

国際教育センター外部委員

近　田　由紀子	前浜松市立瑞穂小学校教諭（日本語教室担当）

墨田区教育委員会

小　坂　裕　紀	教育委員会指導主事
田　畑　美　香	吾嬬第一中学校校長
中　島　聡　子	柳島小学校主任教諭（日本語教室担当）

福岡市教育委員会

赤　穂　香　里	城香中学校教諭（日本語教室担当）
西　村　綾　子	教育センター長期研修員（東箱崎小学校教諭）
徳　成　晃　隆	福岡市立城香中学校校長（福岡市日本語指導教育研究会会長）
吉　岡　辰　実	教育センター指導主事

福岡市教育委員会外部委員

和　田　玉　己	福岡市教育委員会日本語指導員（非常勤）

目　　次

第Ⅰ部　研修プログラムとその評価

（１）墨田区教育委員会

（一般教員対象・区内学校悉皆研修）

平成 24 年度実施研修

平成 25 年度研修計画（案）

（２）福岡市教育委員会

（日本語教室担当教員対象研修）

平成 24 年度実施研修

平成 25 年度研修計画（案）

第Ⅱ部　事業実施概要

第Ⅰ部

研修プログラム開発とその評価

（１）墨田区教育委員会

（一般教員対象・区内学校悉皆研修）

平成 24 年度実施研修

平成 25 年度研修計画（案）

（２）福岡市教育委員会

（日本語教室担当教員対象研修）

平成 24 年度実施研修

平成 25 年度研修計画（案）

（３）研修立案に関する課題―総括―

（１）墨田区教育委員会

（一般教員対象研修・区内学校悉皆研修）

（墨田区教育委員会事務局指導室作成）

以下の研修実施例は日本語指導を必要とする外国人児童生徒等の「少数分散地区」としての墨田区教育委員会管内の全小学校、中学校の一般教員（日本語指導担当教員・加配教員等以外）を対象とする研修として企画されたものであり、研修機会としては５回（各３時間程度）を３日間に分けて実施したものである。

日本語指導を必要とする外国人児童生徒等の未在籍校やすでに日本語指導を必要とされないと判断されている児童生徒の在籍が見られる学校に対して、日本語指導の基本的な知識や技術だけでなく、こうした児童生徒理解を進めるために考案された研修の例として各地で応用できるものである。

なお、この研修の企画に当たってはJSLカリキュラムの考え方が基礎になっており、その結果ここでの研修内容が一般児童生徒の言語能力の向上に視点を当てた指導への応用も可能なものである点から、日本語指導を必要とする児童生徒の在籍しない学校の教員も含めた悉皆研修として実施されたものである。この点でも、各地の教育委員会での研修への応用可能性があると考えられる。（吉谷武志）

１　平成２４年度「日本語指導研修」（年間５回　悉皆研修）

（１）研修実施の背景と意義

本年度，墨田区の外国籍就学児童生徒数（平成２４年５月学務課調査）は，２０９人である。また，日本語指導が必要な外国人児童・生徒（平成２４年９月指導室調査）は，１５８人であり，そのうち，日本国籍を有する児童・生徒は５０人である。これらの数値は，例年ほぼ同数の状態である。墨田区の区立小・中学校は，学校選択制を導入していることもあり編入学が特定の学校に偏る傾向がみられている。また，数値的に表れていないが，外国につながりをもつ日本語指導が必要な外国人児童・生徒等は多く各校に在籍しているのが現状である。

本区の取組としては，小学生において梅若小学校（墨田区の北部）日本語通級指導教室への通級及び通級が困難な児童については日本語支援員の派遣，中学生においては，すみだ国際学習センター（以下，国際センターという）による初期日本語指導などを行っている。また，東京都の日本語指導担当の加配教員として平成２４年度に配置されている学校は，小学校２５校中２校，中学校１２校中２校（各１名ずつ）である。（東京都の事業で，校長の要望により申請。年度毎での正規教員の加配。）その中で，学習形態として取り出し指導と入り込み指導などを位置付けて，初期指導や教科指導への移行を組織的に取り組んでいる。さらに，学習言語や学習支援として，ＮＰＯ団体である「外国人児童生徒学習の会（ＦＳＣ）」と連携を図るなど地域ネットワークの活用も推進している。

外国人児童・生徒等への対応などについてこれまで夏季休業日中に１回（半日）の研修を実施している。各校１名の区が実施する悉皆研修ではあったが，参加者は様々であり，管理職や現在，外国人児童・生徒の担任をしている教員などであった。また，研修内容も区の受入システム（日本語支援員や通訳介助，すみだ国際学習センターの仕組み）などの周知が主であった。さらに，日本語の指導を必要とする外国人児童・生徒等の在籍にも偏りがあるため、在籍学校の受入体制や彼らに対する指導などについて教員の理解や意識にも温度差があるのが現状である。今後は，東京スカイツリーの影響などもあり，ますます国際化が進み，外国に関わる児童・生徒の増加が予想されている。

課題としては，各校における外国人児童・生徒等への理解や指導の充実及び受入体制の確立，通級が困難な児童についての支援方法，母語の多様化に対応した通訳者の不足及び選定，日本語指導の指導計画や方法の改善，各指導者の育成などが挙げられる。

以上のことから，区教委として平成２４年度から，各校における外国人児童・生徒等の担当を明確にするために，全校に外国人児童・生徒等担当者として校務分掌に位置付けることを行った。その担当者を対象に本事業を活用し，東京学芸大学国際教育センターと連携しながら積極的な外国人児童・生徒等の組織的対応力の向上をねらった研修の計画を行うこととした。

（２）対象・人数　４５人程度

①外国人児童・生徒等担当者（以下，担当者という）　３８人

全墨田区立小（２５校）・中（１２校＋夜間学級１校）学校に校務分掌として位置付けた。（平成２４年度より）

②すみだ国際学習センター指導員等

③その他，参加を希望する教員，通訳者，日本語支援員等

（３）平成２４年度の日本語指導研修会について

①　目　　標　　外国人児童・生徒等への墨田区の受入システム及び日本語（学習）支援の現状と課題についての理解を深め，自校における外国人児童・生徒等への対応に生かす。

②　期日・会場・講師等　　※研修の展開時間において，休憩や質疑・応答は除いて記述

回	項目	研修内容		講師等
1	６月２８日（木）１４：００～１６：３０　会場；墨田区役所１３１会議室			講師等
	○研修内容	○外国人児童生徒教育の課題 ○日本語を学ぶ日本語で学ぶ ○墨田区の外国人児童・生徒等の現状と支援システム		(東京学芸大学) 佐藤郡衛 吉谷武志 菅原雅枝 見世千賀子 榊原知美 (墨田区教委指導主事) 小坂裕紀
	○目標	日本語指導を必要とする児童･生徒の現状と課題を共有し，日本語指導の基本的な考え方と墨田区の支援システムの周知を図る。		
	○研修の展開	5 分	○　開会･趣旨説明	
		60 分	○　外国人児童生徒教育の課題【講話】 講師:吉谷武志(東京学芸大学)	
		40 分	○　日本語を学ぶ，日本語で学ぶ【講話】 講師:吉谷武志(東京学芸大学)	
	○参加 43 人	25 分	○　墨田区の現状と支援システムについて【説明等】 担当:小坂裕紀(墨田区教委指導主事)	
		5 分	○　連絡･閉会	
2	７月３０日（月）９：００～１２：００　会場；墨田区役所１３１会議室			講師等
	○研修内容	○学校における外国人児童・生徒等担当者の役割 ○ＪＳＬカリキュラムの考え方と授業づくり		(東京学芸大学) 佐藤郡衛 吉谷武志 菅原雅枝
	○目標	学校における担当者の役割とＪＳＬカリキュラムの考え方と授業づくりについて学ぶ。		

	○研修の展開 ○参加 39 人	5 分 40 分 120 分 5 分	○ 開会・趣旨説明 ○ 学校における外国人児童生徒担当者の役割【講話】 講師 吉谷武志(東京学芸大学) ○ ＪＳＬカリキュラムの考え方と授業への応用【講話】 講師 佐藤郡衛（東京学芸大学） ○ 連絡・閉会	見世千賀子 矢崎弥生子 近田由紀子 (墨田区教委指導主事) 小坂裕紀
3	７月３０日（月）１３：３０～１６：３０ 会場；墨田区役所１３１会議室			講師等
	○研修内容	○ＪＳＬカリキュラムによる授業づくり		(東京学芸大学) 吉谷武志 菅原雅枝 見世千賀子 矢崎弥生子 近田由紀子 (墨田区教委指導主事) 小坂裕紀
	○目標	ＪＳＬカリキュラムによる授業づくりについての理解を深める。		
	○研修の展開 ○参加 41 人	5 分 60 分 80 分 20 分 5 分	○ 開会・趣旨説明 ○ ＪＳＬカリキュラムによる授業事例・紹介【講話】 講師 近田由紀子（東京学芸大学） ○ ＪＳＬを利用した授業づくり【グループ協議：校種別】 指導コメント（各グループ講師） ○ 指導助言 講師 吉谷武志（東京学芸大学） ○ 連絡・閉会	
4	１２月２６日（水）９：００～１２：００ 会場；墨田区役所１３１会議室			講師等
	○研修内容	○外国人児童・生徒等の実態についての理解		(東京学芸大学) 吉谷武志 見世千賀子 近田由紀子 (墨田区教委指導主事) 小坂裕紀
	○目標	各学校における外国人児童・生徒の実態について理解するとともに，対応等について検討する。		
	○研修の展開 ○参加 40 人	5 分 100 分 30 分 20 分 5 分	○ 開会・趣旨説明 ○ 外国人児童・生徒等についての理解 【グループ協議:校種別】 ＜事前課題＞ 日本語指導を受けている(いた)児童生徒の書いたテキスト(作文，ノート等)を各研修生が持参する。それを基に，各グループで協議した。 指導コメント（各グループ講師） ○ グループ発表 ○ 指導助言 講師：吉谷武志（東京学芸大学） ○ 連絡・閉会	
5	１２月２６日（水）１３：３０～１６：３０ 会場；墨田区役所１３１会議室			講 師
	○研修内容	○墨田区における日本語指導が必要な小学生・中学生の指導の実際		(日本語指導担当教員) 中島聡子 結城裕子
	○目標	日本語が必要な児童・生徒の理解を深める。		

	○研修の展開	5分	○　開会・趣旨説明	(国際センター指導員) 今野成子
		60分 (各20分)	○　墨田区の日本語指導の事例紹介【講話】 講師　中島聡子（日本語指導担当教員） 結城裕子（日本語指導担当教員） 今野成子　（センター指導員）	(東京学芸大学) 吉谷武志 菅原雅枝 見世千賀子 近田由紀子
	○参加 37人	80分	○　各校の指導体制検討【グループ協議：校種別】 指導コメント（グループ講師）	(墨田区教委指導主事) 小坂裕紀
		20分	○　指導助言 講師　吉谷武志（東京学芸大学）	
		5分	○　連絡・閉会	

（４）成果と課題

①　成果

・　計画段階から外国人児童・生徒等とこれまで関わりがない学校や担当者もいることから，課題意識の差が懸念されていた。しかし，ＪＳＬカリキュラムの具体物や直接体験による学びの支援などは，どの児童・生徒にも通用する考え方や手法であるととらえ全校を対象とした研修を計画した。参加者のアンケート等からは，現在，外国人児童は在籍していないがＪＳＬの考え方は，様々な教科等の指導に活用でき，授業改善の一端となるとの感想が得られた。また，回数を重ねていくことにより，研修中の様子やアンケートなどからも意識の高揚が見られた。

・　担当者に対し，第１～３回の研修において日本語指導の基本的な考え方を理解し，初期指導と教科指導の違いを明確化にし，日本語指導が必要な児童・生徒の現状を早期に把握する必要性を伝えることができた。

・　第４・５回の研修では，事前課題として外国人児童・生徒等の作品やノート等を持参するという計画段階では，少し難しいと思われた内容ではあったが，この課題提示を行ったことでより，日本語指導が必要な外国人児童・生徒の理解を深めることができた。

このように，本区の目的を達成するために本事業を活用し，研修の計画をたてられたことは，とても効果的であった。

②　課題

・　一斉型研修であるので，個別の悩みや課題に応じた支援が十分に対応できていない。

・　年間５回，そのうち４回が１日の研修設定は，受講者も研修企画側も厳しい反面，長期休業日に設定したことにより１日かけて集中して行うことができるなどといった効果もあった。

２　平成２５年度「外国人児童・生徒等担当者研修会」研修計画（年間３回　担当者悉皆研修）

（１）研修のねらい等

平成２４年度より，全校に「外国人児童・生徒等担当者として校務分掌に位置付けたため，当面は，本事業により計画した同内容（ねらい・対象・人数）にて研修を繰り返し行っていくことが効果的と考える。しかし，課題解決等の視点から以下の点について変更する。

①平成２４年度は，教員研修モデルカリキュラム開発ということから年５回を設定したが，平成２５年度は，開発した内容を精選し「年３回（半日）」とし計画をする。

②研修の内容から，研修名を日本語指導研修会から「外国人児童・生徒等担当者研修会」と改称する。

（２）研修内容と日程

＊　年間通して内部講師（日本語指導経験者）を依頼し，グループ交流やグループワークには，各グループに内部講師を配置して，グループ内討議を深めるように工夫する。

回	項目	研修内容		講　師
1	５月３１日（金）１４：００～１６：３０　会場；教職員研修室			講　師
	○内容	○学齢期の子供の第二言語習得 ○外国人児童・生徒等への教育の課題 ○墨田区の外国人児童・生徒等の現状と支援システム		外部講師 ・大学教授他
	○目標	日本語指導を必要とする児童･生徒の現状と課題を共有し，日本語指導の基本的な考え方と墨田区の支援システムの周知を図る。		内部講師 ・区教委 指導主事等
	○研修の展開	5分	○　開会・趣旨説明	
		50分	○　学齢期の子供の第二言語習得【講話】	
		50分	講師：大学教授等	
			○　外国人児童・生徒等への教育の課題【講話】	
		30分	講師：大学教授等	
			○　墨田区の現状と支援システムについて【説明等】	
		5分	担当:指導主事等	
			○　連絡・閉会	
2	８月２日（金）１３：００～１６：３０　会場；教職員研修室			講　師
	○内容	○学校における外国人児童・生徒等担当者の役割 ○ＪＳＬカリキュラムの考え方と授業づくり		外部講師 ・大学教授他
	○目標	学校における担当者の役割とＪＳＬカリキュラムの考え方と授業づくりについて学ぶ。 日本語指導が必要な外国人児童・生徒等について理解を深める。		内部講師 ・日本語指導担当教員 ・国際センター指導員等
	○研修の展開	5分	○　開会・趣旨説明	
		40分	○　学校における外国人児童生徒担当者の役割【講話】	
			講師:大学教授等	
		90分	○　ＪＳＬカリキュラムの考え方と授業への応用【講話】	
			講師：大学教授等	
		50分	○　ＪＳＬカリキュラムによる授業事例・紹介【講話】	
			講師：大学教授等	
		5分	○　連絡・閉会	
3	１月３０日（木）　１４：００～１６：４５　会場；教職員研修室			講　師
	○内容	○墨田区における日本語指導が必要な小学生･中学生の指導の実際 ○外国人児童・生徒等の実態についての理解		外部講師 ・大学教授他
	○目標	各学校における外国人児童・生徒の実態について理解するとともに，対応等について検討する。		内部講師

	○研修の展開	5分 60分 60分 30分 5分	○　開会・趣旨説明 ○　墨田区の日本語指導の事例紹介【講話】 講師：内部講師 ○　外国人児童･生徒等についての理解【グループ協議:校種別】 ＜事前課題＞ 日本語指導を受けている(いた)児童生徒の書いたテキスト(作文，ノート等)を各研修生が持参する。それを基に，各グループで協議する。 指導コメント（各グループ講師） ○　指導助言 講師：大学教授等 ○　連絡・閉会	・日本語指導担当教員 ・国際センター指導員等

（２）福岡市教育委員会実施研修

（日本語教室担当教員対象研修）

（福岡市教育センター　作成）

以下の研修実施例は日本語指導を必要とする外国人児童生徒等の「多数集中地区」としての福岡市教育委員会管内の小学校、中学校に配置されている「日本語指導担当教員（加配教員等）」を対象とする研修として企画されたものであり、研修機会としては３回（各 3 時間程度）実施したものである。

日本語指導を必要とする外国人児童生徒等が多数在籍する地域の教育委員会には日本語指導を担当する教員が配置されており（もちろん、少数地区においてもこの教員の加配はなされている）、直接日本語指導を行い、あわせて学校全体の指導体制を構築することを求められている。そこでこの教員に必要な日本語指導の基本的な知識や技術に加えて、こうした児童生徒理解を受け入れるための学校運営への参画を進めるための具体的な事例把握等を進めるために考案された研修となっている。

また、福岡市教育委員会が福岡県内だけでなく、北部九州の中核に位置する都市の教育委員会として、近隣県市町村への研修実施上の支援、連携を意識してプログラム開発が試みられた。その結果、本報告の平成 25 年度計画案においては、近隣県市町村の指導主事等研修企画担当者を招致することを想定した研修計画が立案されている。この点で、本研修案は各地の教育委員会が日本語指導担当教員の研修を、近隣の教育委員会と連携して実施する際に参考になると思われる。

なお、すでに墨田区教育委員会案においても指摘したことであるが、この研修の企画に当たっては JSL カリキュラムの考え方が基礎になっており、その研修内容が一般児童生徒の言語能力の向上に視点を当てた指導への応用も可能なものである点から、日本語指導を必要とする児童生徒の在籍しない学校の教員も含めた研修にも有用であると考えられる。この点でも、各地の教育委員会での研修への応用可能性があると考えられる。（吉谷武志）

１　平成２４年度「日本語指導担当教員研修」（年間３回　日本語指導担当教員対象悉皆研修）

（１）研修実施の背景と意義

現在，福岡市内の外国籍就学児童生徒数（平成２４年４月学事課調査）は６３９人（３２ヶ国）で，増加傾向にある。就学時年齢の児童生徒の状況把握が不十分であり，日本語指導を必要としながら十分な指導を受けることができていない現状にあることが伺われる。

本市の取組として，日本語指導員や語学ボランティアの派遣による初期指導等を行っている。日本語指導担当の加配教員（以下，日本語指導担当教員という）が配置されている学校（以下，配置校という）は，現在１４校あり，計２２人が配置されている。その中で，学習形態として取り出し指導と入り込み指導を位置付けて，初期指導や教科指導への移行を組織的に取り組んでいる学校や，学年との連携で取組を進めている学校がある。

平成２４年 7 月「日本語指導が必要な児童生徒受入れ状況等に関する調査」では，福岡市内の外国人児童生徒数が在籍していると調査報告があった４８校のうちで，日本語指導を必要とする児童生徒数は２４８人である。うち日本語指導を必要とする外国人児童生徒数が１７４人（小学校：１４８人，中学校：２６人），日本国籍をもつが日本語指導を必要とする児童生徒数が７４人である。日本語指導等を受けている児童生徒は２０１人で，日本語指導等受けないままが４７人となっている。担当教員

配置が少ない現状では，十分な対応ができていない状況にある。

また，母語の多様化に対応した通訳など指導員や語学ボランティアが不足しており，配置校での課題も多い。学校体制が確立していない中で，日本語指導担当教員任せの傾向になっている。担当教員も，配置校の４割が常勤講師をあてて，１年で交替するなど継続的な指導がしにくい指導者配置になっている。また，初期指導と教科指導が同時進行の状態で，慣れない指導者にとっては，準備等が追いつかない現状もある。進路の面での諸課題も抱えている。行政的な課題としては，学籍措置の面，人的な面，指導的な面，研修面で担当課が分散していて，実態把握や取組状況の把握が不十分であり，個に応じた受入れ体制，指導・支援のサポートが十分にできていない。

上記の現状を受けて，多くの日本語指導を必要とする児童生徒にとって，日本語を習得するとともに，日常生活や学校生活に適応していくことが緊急の課題である。学校教育においては，受入体制の整備，組織的な取組，異文化理解の風土づくりや，日本語指導における指導計画や指導方法の改善，教材・教具の整備が求められるが，なにより指導者の早期の育成が大きな課題となっている。

以上の点から，本研修において，日本語指導の基本的な考え方について日本語指導担当教員を中心とした指導者の理解を深め，計画的で，個に応じた指導力を高めていくことは意義深い。

（２）対象・人数　３０人程度

福岡市内小・中学校の日本語指導担当教員及び，日本語指導を必要とする児童生徒が在籍する学級担任，日本語指導員等

（３）平成２４年度研修講座について

①　目　　標　　日本語指導担当教員の使命感の高揚と指導力の向上を図る。

②　研修内容　　日本語指導担当教員の役割と指導の基礎・基本

③　期間・会場・日程・講師等　　会場　　福岡市教育センター内　２０１研修室

<table>
<tr><th>回</th><th>項目</th><th colspan="2">研修内容</th><th>講　師</th></tr>
<tr><td rowspan="6">1</td><td colspan="3">４月２０日（金）１４：４５～１６：４５　会場；福岡市教育センター</td><td>講　師</td></tr>
<tr><td>○研修
内容</td><td colspan="2">日本語指導の基本的な考え方
○児童生徒の現状と学校の課題, JSL児童生徒教育の基本課題･体制づくり</td><td rowspan="5">（城香中学校校長）
徳成晃隆
（東京学芸大学）
吉谷武志
佐藤郡衛
見世千賀子
矢崎弥生子
（九州大学）
和田玉己
（教育センター）
西村綾子</td></tr>
<tr><td>○目標</td><td colspan="2">日本語指導を必要とする児童生徒の現状と課題を共有し，ＪＳＬカリキュラムによる日本語指導の基本的な考え方の周知を図る。</td></tr>
<tr><td>○研修の
展開</td><td>15 分
20 分

55 分</td><td>○　開会･趣旨説明
○ 福岡市における日本語指導を必要とする児童生徒の現状と学校の課題（講話）　講師　徳成晃隆(城香中学校校長)
○ JSL児童生徒教育の基本課題･体制づくり(講話)
講師　吉谷武志(東京学芸大学)</td></tr>
<tr><td>○参加
26 人</td><td>25 分

5 分</td><td>○ 学校におけるJSL児童生徒の課題及び課題の共有（グループ交流)･･･グループ内各講師
○　連絡･閉会</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">７月１３日（金）１４：４５～１６：４５　会場；福岡市教育センター</td><td>講　師</td></tr>
</table>

	○研修内容	日本語指導の実際（１） ○ＪＳＬカリキュラムによる授業づくりと授業場面に焦点化		（東京学芸大学） 吉谷武志 佐藤郡衛 菅原雅枝 見世千賀子 矢崎弥生子 （九州大学） 和田玉己 （教育センター） 西村綾子
	○目標	日本語指導の実践事例をもとに，ＪＳＬカリキュラムによる授業づくりについて理解を深め，授業場面の焦点化を図る。		
	○研修の展開	5分 10分 60分	○ 開会・趣旨説明 ○ 日本語指導の実践事例報告（小学2年国語科「まとまりに分けてお話を書こう」） （報告） 西村綾子（教育センター長研） ○ ＪＳＬカリキュラムによる授業づくり（１） ―実践事例に基づく授業の構想― （講話）講師 佐藤郡衛（東京学芸大学）	
	○参加 25人	40分 5分	○ 各学校におけるＪＳＬ児童生徒指導の課題 ―授業場面に焦点化 ―（グループワーク）…グループ内各講師 ○ 連絡・閉会	
3	１１月３０日（金）１４：４５～１６：４５ 会場；福岡市教育センター			講 師
	○研修内容	日本語指導の実際（２） ○ＪＳＬカリキュラムによる授業づくりの具体化		（東京学芸大学） 吉谷武志 佐藤郡衛 菅原雅枝 小島格 （九州大学） 和田玉己 （教育センター） 西村綾子
	○目標	ＪＳＬカリキュラムによる授業づくりとして指導案を作成し，教科指導の具体化を図る。		
	○研修の展開	5分 70分	○ 開会・趣旨説明 ○ ＪＳＬカリキュラムによる授業づくり（２） ―教科指導の具体化 ―（グループワーク）…グループ内各講師 ①小学校４年算数科「がい数」 小学校（入り込み２グループ，取り出し２グループ） ②中学校１年作文指導 中学校（１グループ）	
	○参加 29人	20分 15分 5分	○ グループ発表，指導コメント（グループ内各講師から） ○ 指導助言 講師 佐藤郡衛（東京学芸大学） ○ 連絡・閉会	

（４）成果と課題

① 成果

・ 福岡市内の日本語指導の現状を交流する中で，個に応じた教材作成のヒント，母学級の学習進路に応じた指導形態の在り方（取り出し指導や入り込み指導），教科指導に応じた日本語指導のねらいの設定，指導計画の立案，指導案の作成，評価の仕方，評価資料の作成など，具体的な内容について理解を深めることができてきた。

・ 日本語指導に慣れていない指導者にとっては，日本語指導の基本的な考え方を理解し，初期指導と教科指導のちがいを明確化にし，日本語指導が必要な児童生徒の日本語能力の現状を早期に把握する必要性を感じることができた。

・ 研修の企画設定には，東京学芸大学でのＪＳＬ研修と企画・調整会議を経て，福岡市における現状を考慮して内容設定をすることができてきた。また，本研修は，日本語指導教室設置校連絡協議会（以下，設置校連絡会という）の研修と連携して進めてきた。内容として１回目は，４月

当初の設置校連絡会第１回目研修にて日本語指導担当者の役割や推進体制について受講しているので，日本語指導の考え方について設定できた。２回目も６月中旬に行われた設置校連絡会での研究授業を経ているので，実践事例はその授業内容をもとに東京学芸大学教授による事例に基づいた日本語指導の在り方を学ぶことができた。特に，教科指導において，教科の目標に準じて，ＪＳＬカリキュラムによる「日本語の目標を設定する」という考え方が浸透していく必要が明らかになった。これを受け，３回目は，実践事例が国語科の内容であったことから，ＪＳＬカリキュラムによる教科指導を考えることができ，「日本語の目標設定」をより意識化して，小学校では算数科，中学校では作文指導について指導案を作成する演習を組むことができ，ＪＳＬカリキュラムの考え方についての理解を深めることができた。

このように，設置校連絡会の研修内容とつないで企画することができたので，限られた研修時間を有効に活用することができた。

・　学校内で個々に悩みを抱えこんでいる現状から，講座終了後も情報交換がなされ，相互に連携していく動きが出てきた。また，設置校連絡会の研修と連携できたことで，校内体制の構築への動きが出てきた。

②　課題

・　短期的で，２時間枠の研修において，習得できる内容や情報が限られている。
・　一斉型研修であるので，個別の悩みや課題に応じた支援が十分に対応できていない。
・　教科指導に応じた日本語指導のねらい設定はイメージできているが，指導中のリライトの手法や教材作成の工夫など細かな指導についての研修ができていない。

２　平成２５年度「日本語指導担当教員研修」　研修計画　（年間４回　悉皆研修）

（１）ねらい

日本語指導担当教員を中心とした指導者の育成を図る。具体的には，講演やグループ演習，研究授業を通して，児童生徒の日本語能力の現状を早期に把握し個に応じた指導計画を立案していく企画力や創造力，日本語指導のねらいと見取りに応じた指導力の向上を図る。

（２）対象・人数　４０人程度

福岡市内小・中学校の日本語指導担当教員及び，日本語指導を必要とする児童生徒が在籍する学級担任，日本語指導員等

（３）研修内容と日程

＊　年間通して内部講師（日本語指導経験者）を依頼し，グループ交流やグループワークには，各グループに内部講師を配置して，グループ内討議を深めるように工夫する。

回	項目	研修内容	
１	４月２６日（金）１４：４５～１６：４５　　会場；福岡市教育センター		講　師
	○内容	日本語指導の基本的な考え方・初期指導とＪＳＬカリキュラムによる授業の構想	外部講師・大学教授他
	○目標	初期指導に関する理解を深め，ＪＳＬカリキュラムによる基本的な考え方を習得し，授業の構想に向けた日本語指導について基本的な考え方の周知を図る。	

	○研修の展開	5分 35分 60分 15分 5分	○　開会・趣旨説明 ○　学校におけるＪＳＬ児童生徒の課題及び課題の共有（グループ討議） ○　初期指導とＪＳＬカリキュラムによる授業の構想（講話）講師大学教授他 ・日本語指導の段階的なプログラムについての理解を促し，初期指導から教科指導への橋渡しとなる「授業の構想」について理解を図る内容 ○　講話を受けた後の感想の交流（グループ交流） ○　連絡・閉会	内部講師 ・教育センター主事・長研 ・小学校教諭
2	８月２３日（金）１３：４５～１６：４５　　会場；福岡市教育センター			講　師
	○内容	日本語指導の実際（1）・　実習　日本語指導教科指導の指導案を作成		外部講師 ・大学教授他
	○目標	JSL カリキュラムの基本的な考え方をもとに，日本語指導の教科指導について学ぶ。		
	○研修の展開	15分 90分 40分 30分 5分	○　開会・趣旨説明　テキスト；『初期指導ガイド』（福岡市日本語指導長期研修員作成） ○　日本語指導　課題別研修　―指導案作成―（グループワーク）…グループ内各講師 ア）入り込み指導３グループ（小学校２，中学校１） イ）取り出し指導３グループ（小学校２，中学校１） ○　全体交流（グループ活動発表） ○　日本語指導の指導計画についての考え方（指導講話）　講師　大学教授他 ・設定した児童生徒の見とりに応じた授業構想を描き，日本語指導のねらい設定や指導展開の手だての具体化において共通理解を図る内容 ○　連絡・閉会	内部講師 ・教育センター主事・長研 ・小学校教諭
3	９月～１０月予定　１４：００～１６：４５　会場；福岡市内小学校			講　師
	○内容	日本語指導の実際（２）		外部講師 ・県内小学校教諭
	○目標	日本語指導の授業の実際を参観し，教科指導の具体的方法や指導上の留意事項を確かめ，指導力向上を図る。		
	○研修の展開	10分 45分	○　開会・趣旨説明 ○　参観　模範授業参観	
		80分 25分 5分	○　協議　授業者自評を含め，教科指導の具体的方法の在り方や指導上の留意事項について協議を行う。（グループ協議→全体協議） ○　指導助言　　講師　福岡県内小学校教諭（日本語指導担当） ・児童生徒の実態把握と授業の構想の立て方と日本語指導の目標設定の適切さの検証，指導中の細かな手だてについての指導・助言 ○　連絡・閉会	内部講師 ・教育センター主事・長研 ・小学校教諭
4	１２月１３日（金）１４：４５～１６：４５　会場；福岡市教育センター			講　師
	○内容	日本語指導の実際（３）		内部講師 ・教育センター主事・長研 ・小学校教諭
	○目標	受講者それぞれに取り組んだ，日本語指導の現状と成果，課題について実践報告し，日本語指導の指導方法や課題に向けた解決法について学ぶ。		
	○研修の展開	5分 30分	○　開会・趣旨説明 ○　実践報告（全体会）	

		50 分 30 分 5 分	○　各課題別の実践報告や進捗状況（グループ討議･･･グループ内各講師） ○　日本語指導の基本的な考え方（指導・助言）講師　大学教授他 ・指導の具体化までの研修を経て，実践的に取り組んだ内容を交流し，日本語指導の基本的な考え方に伴った内容になっているか検証する内容 ○　連絡・閉会	 外部講師 ・大学教授他

（３）研修立案に関する課題―総括―

墨田区教育委員会と福岡市教育委員会、それぞれ日本語指導を必要とする外国人児童生徒等の在籍状況において、各地の公立学校の典型的な状況を代表しうる教育委員会との連携で実施し、次年度に向けて計画された研修プログラムを上記において示してきた。そこでそれぞれについて具体的な反省点、課題等を洗い出し、それを評価した後に示された研修計画にも、新たな改善と狙いを示した。

ここでは、本開発プログラム全体から見えてきた研修立案に関する課題についてとりまとめておきたい。

まず、両教育委員会のまとめ－この第１部（１）及び（２）－にも見られるのだが、研修の目的を十全に達成するためには、研修に要する時間（日程）の確保がきわめて困難な点がある。墨田区の事例に見られるように、今年度（平成 24 年度）の研修については学校の休業中（夏休み、冬休み）を利用してようやく年間５回（同日に２回分の内容を実施）の研修時間の確保が可能となった。福岡市においても、同市教委の通常の教員研修の単位時間が２時間とされていることから、研修内容の精選が必要となり、その結果ワーク・ショップなど研修成果の構築（参加者による指導計画の作成や模擬授業の実施など）が困難な状況がある。

こうした状況に対しては、まずもって研修内容の精選が不可欠である。さらに、研修課題にそのものに関しての認識状況に差のある一般教員への研修に際しては、いっそうの工夫を要することになる。

墨田区では研修に際して、外部講師（大学教員等）だけでなく区内における外国人児童生徒担当教員（及びその経験者）の活用、より身近な事例（区内の学校の事例）の提示を加えるために内部講師の活用を行った。

これに対して福岡市においては、研修担当者が日本語指導担当教員であることから課題の共有が容易であり、教員同士の情報交換が日常化されている（月例の「日本語指導連絡協議会」が実施されている）ことから、市教委の主催による研修と「連絡協議会」の情報交換会との連携（内容上の連携）を想定している。

いずれにせよ、研修内容及び機会の多様化、頻度の高さと、近年の教員の多忙化の中で企画される研修は、対象者の課題意識の把握とそれへの対応が必要となる。本開発プログラムでは、上記のような対応を含んで次年度の計画案が作成されている。

次に、今回我々が開発対象とした、日本語指導を必要とする外国人児童生徒等に関する研修のように比較的新しい課題に属するものについての研修を企画、実施するに際しては、次のように特に留意すべき点があるように思われる。

まず、日本語指導を必要とする児童生徒とはどのような児童生徒であるのか、言語能力をどのように見取るのか、さらにこうした児童生徒を学校で受け入れるために開発・普及されてきた JSL カリキュラムに関する理解やその基本的な知識など、理論的な内容の伝達が必要となる。

しかも、その基本的な知識、理解が不足する中で、日常の児童生徒指導、教育実践が要請される。

さらに前者の基本的な知識に関する理解そのものが不足していると言う実情（少数分散型地区では特にそうである）においては、研修そのものの必要性が理解されがたいことも課題となる。

こうした点については、墨田区の例に見られるように、学校の実情、日本語指導を必要とする児童生徒の「見取り」そのものを課題とすることも有効であった。すなわち、通常の研修とは異なるが、研修を必要とするそもそもの原因となっている児童生徒への視点、現状の把握そのものを研修内容に取り組むということである。墨田区においては、こうした児童生徒のインタビューや実際に本人が書いたものの収集（たとえば国語の作文、感想文の入手、研修への持参－事前課題）を研修内容に加えるなど、ほ

かの研修にはあまり見られないような手法をも用いることにした。そのことで初めてこうした児童生徒の実態に触れた研修参加者もおり、研修の必要性そのものの理解が担保されるなどした。

また、今回の研修では児童生徒への日常的な対処が喫緊の課題となっている場合（福岡市の担当者研修の場合など）には、参加者においては実践的な内容の研修（ワーク・ショップ）への要求が強い。従って研修への参加意識も、日常的な児童生徒の指導、実践に重きが置かれる傾向がある。この点も研修内容としてはもちろん重要である。しかしながら、こうした児童生徒の支援、教育においては教室での直接的な指導とともに、教員の学校の組織運営への参画が必要とされることが多くなる。この点については、日本語指導担当教員は管理職ではないことから、管理職的な意識や役割、すなわち実践を支えるコーディネーター的な役割が必要であることへの理解が乏しい場合がある。

以上から、日本語指導担当教員への研修においては、通常の授業実践や児童生徒理解など教室での指導に関する内容だけでなく、内容的には主任教諭や管理職的などの指導的な立場に立つ教員に求められるような、学校経営的な観点からの学校運営に関する理解も研修内容に加えられる必要がある。しかしながら、福岡市にも当てはまることだが、全国的に見て少なくない学校、自治体内で初任者教員がこの職務に就いている実情が見られることも多いので、こうした研修内容が教員としての経験の浅さから理解されにくい場合もみられる。本研修では、日本語指導担当教員の実情を考慮して研修を企画してきた。

日本語指導を必要とする児童生徒を指導する教員、こうした児童生徒を受け入れる学校に属する教員にとって、こうした児童生徒の特性を理解し、その特性に応じた指導を行うこと、そのために開発普及が急がれる JSL(Japanese as a Second Language)カリキュラムに関する理解を深めることが不可欠である。しかしながら、各地の現状としては、このような研修内容の理解、普及をすすめる前提として、こうした研修そのものが必要であることが必ずしも理解されていないという段階にあるように思われる。

本研修開発プログラムが各地での研修の実施に参考となることを願っている。(吉谷武志)

第Ⅱ部

事業実施概要

本事業計画概念図

（別紙）　　平成 25 年 3 月 20 提出

事業実施報告（資料）

（平成２４年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム）

機関名　東京学芸大学　　担当者氏名　吉谷武志　　所属・職名　国際教育センター・教授

担当者連絡先　TEL　042-329-7726　　Email　tyosiedu@u-gakugei.ac.jp

プログラム名　教科学習に資する言語能力を高める指導力を養成する教員研修プログラムの開発－JSL カリキュラムを活用した授業力の養成－

連携先　墨田区教育委員会・福岡市教育委員会

※出席者・委員の氏名については、敬称略 50 音順とし、その所属等については本文書末に一括して記載した。

１　連携先との協議会（打合せ）の実施状況

〇福岡市教育委員会及び墨田区教育委員会との「教員研修モデルカリキュラム開発プログラムによる外国人児童生徒担当教員研修企画・検討会議」の実施状況は以下の通りである。

【第１回】

日時：平成 24 年 5 月 12 日（土）～13 日（日）

場所：東京学芸大学国際教育センター

出席委員（両日とも同じ）：

福岡市教育委員会：　赤穂香里、西村綾子、吉岡辰実

墨田区教育委員会：　小坂裕紀、田畑美香、中島聡子

国際教育センター：　榊原知美、佐藤郡衛、菅原雅枝、松井智子、見世千賀子、吉谷武志

・5 月 12 日（土）：

9 時 30 分～10 時 00 分　JSL 研修実施、当日打ち合わせ

10 時 00 分～16 時 00 分　JSL 研修実施（初任者研修に企画者として参加）

16 時 30 分～17 時 30 分　JSL 研修実施後の課題について（協議）

・5 月 13 日（日）

10 時 00 分～13 時 00 分　教員研修モデルカリキュラム作成・企画会議

議題：

１．　プロジェクトのねらいについて

２．　教育委員会における外国人児童生徒教育の現状と課題について

・福岡市における JSL 児童生徒の現状と教員研修の必要性

・墨田区における JSL 児童生徒の現状と教員研修の必要性

３．　教育委員会における研修計画（平成 24 年度）について

４．　後の日程について（次回、6 月 23 日、24 日の確認）

【第 2 回】

日時：平成 24 年 6 月 23 日（土）及び 24 日（日）

場所：東京学芸大学国際教育センター（23 日）、墨田区役所教育委員会室（24 日）

・6 月 23 日（土）：会場　東京学芸大学

墨田区教育委員会：　小坂裕紀、田畑美香

福岡市教育委員会：　赤穂香里、西村綾子、吉岡辰実

国際教育センター：　榊原知美、佐藤郡衛、菅原雅枝、見世千賀子、吉谷武志

9 時 30 分～10 時 00 分　JSL 研修実施、当日打ち合わせ

10 時 00 分～16 時 00 分　JSL 研修実施（授業作りのポイントについて、企画者として参加）

16 時 30 分～17 時 30 分　JSL 研修実施後の課題について（協議）

・日時：6 月 24 日（日）：会場　墨田区役所

墨田区教育委員会：　小坂裕紀、田畑美香、中島聡子

福岡市教育委員会：　赤穂香里、西村綾子、吉岡辰実

国際教育センター：　佐藤郡衛、菅原雅枝、見世千賀子、吉谷武志

10 時 00 分～13 時 00 分　教員研修モデルカリキュラム作成・企画会議

議題：

１．JSL 研修を企画する視角について

・第 1 回、第 2 回研修を終えて、各教育委員会管内の研修課題との関連で研修を実施する際の課題、実施上の疑問等の検討。

２．福岡市における JSL 児童生徒研修の企画について

・教育委員会主催研修（4 月、7 月、11 月）の内容（日本語教室担当者研修）

・日本語設置校連絡会（日本語教室担当教員の連絡会、年 10 回程度開催）の内容

・研修実施時期に関わる研修内容（課題）についての整理

３．墨田区における JSL 児童生徒研修の企画について

・教育委員会主催研修（7 月、8 月、12 月）の内容（区内全小中学校外国人教育担当者対象）

４．その他

・事業報告書（記載事項）について

【第 3 回】

日時：平成 24 年 10 月 20 日（土）及び 21 日（日）

場所：東京学芸大学国際教育センター（20 日）、墨田区役所教育委員会室（21 日）

日程及び出席委員

・10 月 20 日　会場：東京学芸大学

出席委員

墨田区教育委員会：　小坂裕紀、中島聡子

福岡市教育委員会：　赤穂香里、西村綾子、吉岡辰実

国際教育センター：　榊原知美、佐藤郡衛、菅原政枝、松井智子、見世千賀子、吉谷武志

9 時 00 分～10 時 00 分　JSL 研修実施、当日打ち合わせ

10 時 00 分～16 時 00 分　JSL 研修実施(JSL 授業改善の方法についての研修に企画者として参加)

16 時 30 分～17 時 30 分　JSL 研修実施後の課題について（協議）

・10 月 21 日　会場：墨田区役所

墨田区教育委員会：　小坂裕紀、田畑美香、中島聡子
福岡市教育委員会：　赤穂香里、西村綾子、吉岡辰実
国際教育センター：　佐藤郡衛、菅原政枝、吉谷武志
10 時 00 分～13 時 00 分　教員研修モデルカリキュラム作成・企画会議
議題：
１．福岡市における JSL 児童生徒教育第 3 回研修（11 月 30 日）の企画について
２．墨田区における JSL 児童生徒教育第 4 回、第 5 回研修（12 月 26 日）の企画について
３．福岡市及び福岡市における JSL 児童生徒教育研修年間計画（案）について
４．今後の日程（第 4 回企画会議・平成 25 年 2 月 17 日等）について、その他

【第 4 回】
日時：平成 25 年 2 月 17 日（日）10：00～17：00
場所：東京学芸大学国際教育センター
日程及び出席委員
墨田区教育委員会：　小坂裕紀、中島聡子
福岡市教育委員会：　吉岡辰実、徳成晃隆
国際教育センター：　榊原知美、菅原政枝、見世千賀子、吉谷武志
議題：
１．福岡市における外国人児童生徒等の教育上の課題について
２．報告書（教員研修センター提出、PDF 版）について
〇平成 24 年度教員研修プログラム
墨田区教員研修の総括
福岡市教員研修の総括
〇平成 25 年度教員研修プログラム実施計画
墨田区教員研修
福岡市教員研修
３．報告書印刷版について
〇最終報告書について
パンフレット版（広報用、印刷物）の検討

〇福岡市企画調整会議
福岡市における JSL サテライト・セミナー（研修）の実施し、主として、その成果について検証を行うとともに、次年度以降における日本語指導担当者への研修モデル（モデルカリキュラム）を検討するための企画調整会議を行った。

第 1 回企画調整会議
日時：4 月 12 日(木)　10 時～13 時
場所：福岡市教育センター
出席者：福岡市教育委員会　西村綾子、吉岡辰実、国際教育センター　吉谷武志
議題
第 1 回 JSL サテライト・セミナーの企画進行について

第 2 回企画調整会議

日時：4 月 21 日(土)　9:30～12:30

場所：福岡市立城香中学校

出席者：福岡市教育委員会：赤穂香里、西村綾子、徳成隆晃、吉岡辰実、和田玉己

国際教育センター：佐藤郡衛、見世千賀子、矢崎弥生子、吉谷武志

議題：

１．福岡市の日本指導担当教諭の現状と課題

２．福岡市における JSL 児童生徒及び学校の課題を踏まえた研修項目について

３．第 2 回福岡市サテライト研修（7 月 13 日）における研修課題について

４．第 1 回 JSL 児童生徒教育研修（東京学芸大学、5 月 12 日）、第 2 回 JSL 児童生徒教育研修（東京学芸大学、6 月 23 日）にむけての課題について

第 3 回企画調整会議

日時：6 月 12 日(木)　10 時～12 時　日本語指導授業研究会

13 時～14 時　協議

場所：福岡市立博多小学校

出席者：　福岡市教育委員会　西村綾子、吉岡辰実

国際教育センター　吉谷武志　教授

議題

第 2 回 JSL サテライト・セミナーの企画進行について

第 4 回企画調整会議

日時：7 月 14 日(土)　10:00～14:00　下記議題について

14:00～16:00　福岡市国際交流協会（レインボープラザ見学、事業説明）

16:00～17:00　会議総括

場所：福岡市職員研修センター及び福岡市国際交流協会(レインボープラザ)

参加者：　福岡市教育委員会：赤穂香里、西村綾子、吉岡辰実、和田玉己

国際教育センター：佐藤郡衛、菅原政枝、見世千賀子、矢崎弥生子、吉谷武志

議題：

１．JSL カリキュラムによる授業作りの課題―福岡市の教員研修の工夫―

・前日研修を踏まえた課題の整理

・福岡市における研修年次計画

・日本語教室設置校連絡協議会における研修課題と教育センター主催研修の連携課題

・教員の職能別研修計画について

・日本語指導員等の研修計画について

※研修内容の構想及び設置校研修と教育センター研修の関係の確定

※文部科学省の『受け入れの手引』きに依拠した内容の構想

３．第 3 回福岡市サテライト研修（11 月 30 日）における研修課題について

４．第 3 回 JSL 児童生徒教育研修（東京学芸大学、10 月 20 日）にむけての課題について

・JSL 研修を企画するにあたっての課題設定と視点について

第 5 回企画調整会議

日時：12 月 1 日(土)　10:00～14:00　下記議題について

14:00～16:00　福岡市国際交流協会（レインボープラザ見学、事業説明）

16:00～17:00　会議総括

場所：福岡市職員研修センター及び福岡市国際交流協会(レインボープラザ)

参加者：　福岡市教育委員会：赤穂香里、西村綾子、吉岡辰実、和田玉己

墨田区教育委員会：小島裕紀

国際教育センター：佐藤郡衛、菅原政枝、小島格、吉谷武志

議題：

１．第 3 回サテライト・セミナーの企画内容に関する評価について

・日本語教室担当教諭の研修課題について

・日本語教室担当教諭の役割、研修企画の観点と方法について

2. 福岡市における JSL 児童生徒及び学校の課題を踏まえた年間研修計画について

・福岡市における研修年次計画

・日本語教室設置校連絡協議会における研修課題と教育センター主催研修の連携課題

・教員の職能別研修計画について

・日本語指導員等の研修計画について

3. 最終報告書に向けての実施研修の総括 1

第 6 回企画調整会議

日時：2 月 12 日(火)　10 時～12 時

場所：福岡市教育センター

出席者：福岡市教育委員会　長谷川弘明（研修センター所長）、相良誠司（研修課長）、吉岡辰実、

国際教育センター　吉谷武志

議題

最終報告書について

次年度（平成 25 年度）の研修計画について

２　研修の目的・日程等

【研修の目的】

本事業においては、いわゆる外国人児童生徒の分散地区である墨田区における小学校、及び中学校における一般教諭(校務分掌、国際理解教育・外国人児童生徒教育担当)に対する JSL 児童生徒教育に関する研修、及びいわゆる外国人児童生徒の集住地区である福岡市における日本語指導（日本語教室担当）教諭に対する JSL 児童生徒教育に関する研修を、それぞれの在籍上の特色に応じた担当教諭への研修プログラムの開発を目的としている。

それぞれの自治体における研修は、現在の所以下のような形で実施されている。

【墨田区における研修】

本研修の対象者は、区内の小学校、中学校の一般教諭である。

各学校における少数の外国人児童生徒等への指導、体制作り、授業の進め方（支援方法）を獲得することを目的としている。

第１回墨田区研修
日時：6 月 28 日（木）　14：00～16：00　場所：墨田区役所
講義１「外国人児童生徒教育の課題」　吉谷武志（国際教育センター）
講義２「日本語を学ぶ、日本語で学ぶ」菅原雅枝（国際教育センター）
講義３「墨田区の外国人児童生徒教育の現状と支援のシステム」小坂裕紀（墨田区教育委員会）

第２回墨田区研修
日時：7 月 30 日（月）9：00～16：00　場所：墨田区役所
講義１「学校における外国人児童生徒教育担当者の役割」　吉谷武志
講義２「ＪＳＬカリキュラムの考え方と授業への応用」　佐藤郡衛
講義３「ＪＳＬカリキュラムによる授業事例･紹介」　近田由紀子
グループワーク１：JSL カリキュラムを利用した授業のポイントについて
（指導：小坂裕紀、佐藤郡衛、近田由紀子、吉谷武志）
グループワーク２：JSL カリキュラムによる授業の構想について
（指導：小坂裕紀、佐藤郡衛、近田由紀子、吉谷武志）

第３回墨田区研修
日時：12 月 26 日（水）9：00～16：00　場所：墨田区役所
グループワーク　墨田区における外国人児童生徒等の指導実態について
（各校在籍児童生徒の実情把握・交流）
（指導：小坂裕紀、近田由紀子、見世千賀子、吉谷武志）
講義「墨田区における児童生徒指導の実態について」
（講師：中島聡子、結城裕子、今野成子）
（指導：小坂裕紀、近田由紀子、見世千賀子、菅原雅枝、吉谷武志）

【福岡市における研修】
本研修の対象者は、主として市立の小学校、中学校において日本語指導を担当している 23 名の教諭。。あわせて、それぞれの学校における校長、教頭、教務主任等管理職を対象とする研修も企画実施した。
JSL カリキュラムを利用した授業作り、学校での受け入れ体制つくり、等、日本語担当教諭が配置されている学校における体制作りを進めるための担当教員研修モデルを構築することを目的とした。

第１回福岡市研修
日時：4 月 20 日(金)　14：45～16：45　場所：福岡市教育センター
研修課題：「日本語指導教員の役割と JSL 指導の基礎･基本」
講義１：福岡市における日本語指導を必要とする児童生徒の現状と学校の課題　徳成晃隆
講義２：JSL 児童生徒教育の基本課題、体制つくり　吉谷武志
講義３：学校における JSL 児童生徒指導の課題（グループワーク）及び課題共有

指導（西村綾子、吉岡辰実、和田玉己、佐藤郡衛、見世千賀子、矢崎弥生子、吉谷武志）

第 2 回福岡市研修
日時：7 月 13 日(金)　14:45～16:45　場所：福岡市教育センター
研修課題：「JSL カリキュラムによる授業作り・取り出し指導の工夫」
講義 1：日本語指導事例紹介―小学校の取り出し指導について―　西村綾子
講義 2：JSL カリキュラムによる授業作り―事例に基づく授業の構想―　佐藤郡衛
グループワーク：JSL カリキュラムによる授業づくり
指導（西村綾子、吉岡辰実、和田玉己、佐藤郡衛、見世千賀子、矢崎弥生子、吉谷武志）

第 3 回福岡市研修
日時：11 月 30 日(金)　14:45～16:45　場所：福岡市教育センター
研修課題：「JSL カリキュラムによる授業作り・取り出し指導の工夫」
指導（西村綾子、吉岡辰実、和田玉己、佐藤郡衛、見世千賀子、矢崎弥生子、吉谷武志）

３　作成教材等

墨田区及び福岡市の両自治体における教員研修プログラムを実施し、外国人児童生徒等が少数で分散している地域における一般教職員対象の研修プログラム（墨田区教育委員会）及び外国人児童生徒の手中する学校が存在する地域における日本語指導担当教員等を主たる対象とする研修プログラム（福岡市教育委員会）を作成、実施した。

さらに今年度作成・実施した研修モデル（上記）を評価、改善し、各自治体における平成 25 年度における年度計画案（カリキュラムモデル）を作成した。

以上については本報告書第 1 部に掲載した。

４　研修カリキュラムの開発（企画、実施、評価）に当たっての工夫・留意点

1990 年代以降日本の学校に顕在化してきた外国人児童生徒等は、今日、日本全国に、分散あるいは集中しながらあまねく在籍しているのが現実である。その意味で、ほとんどの自治体、教育委員会がその教育、学校での受け入れ体制を整えねばならなくなっている。これを受けて、文部科学省においても、義務教育諸学校において特別な教育課程を編成する必要性があることを鑑み、そのガイドライン等を作成している状況にある。

しかしながら、こうした外国人児童生徒等は、その教育（支援）上の特性においては、初期的な日本語指導が必要な児童生徒から、学習言語の指導を必要とする児童生徒、さらに文化的な背景を異にするが日本語の能力においてはすでに日本の児童生徒と共に一般学級で一緒に学習できる者まで、実に多様な児童生徒である。そして、こうした児童生徒等に対する指導については、外国人集住地区にある学校を除いては、未だその指導法が多くの教員に普及しているわけでは無い。むしろ、文部科学省や等国際教育センターが開発した JSL カリキュラムは、現在、その普及が待たれている状況にある。

そのため、こうした児童生徒等の在籍状況において好対照をなす二つの教育委員会（墨田区教育委員会、福岡市教育委員会）において、外国人児童生徒等を担当する教員である日本語指導担当教員と一般教員の双方を対象とする研修を、それぞれの自治体が独自に実施する事を念頭に置いて、委員会管内の画題を踏まえた研修を実施した。さらに、1 年間を通して実施した研修を、さらに評価し、その改善策を

踏まえて、次年度に実施すべき研修案を策定した。

こうした 2 年度に渡るモデル（実施モデルと計画モデル）を提示することで、同様の研修を計画する各地の教育委員会において独自の研修を実施する際の参考例を提示出来たように思われる。

５　他の教育委員会に参考にしてもらいたいこと（＝報告書作成のポイント）

各自治体（教育委員会管内）における日本語指導を必要とする外国人児童生徒等の在籍状況は多様（分散、集住、分散の中の集中、集中の中の分散など）であり、担当する教員数、在籍する学校数とそこに在籍する教職員、関係者数など、自治体毎に実情は異なっているのがこの課題の困難さをもたらしている。

本プロジェクトでは、墨田区と福岡市という在籍状況と自治体の施策の背景（制度的な在り方等）が異なる自治体間の協働を通して、それぞれの自治体にふさわしい研修実施体制・プログラムを構想し、試行するとともに、試行を踏まえたプログラム案を作成し提示した。

各自治体（教育委員会）においては、それぞれの管内の外国人児童生徒等の在籍状況、学校の受け入れ状況を勘案して、本プロジェクトで試行、作成されたプログラムを参考にして、各地の状況に合わせた研修プログラムを構想し、実施してほしい。

【備考：出席者・委員の所属等一覧】

福岡市教育委員会：　赤穂香里　城香中学校教諭（日本語教室担当）
西村綾子　教育センター長期研修員、東箱崎小学校教諭
徳成晃隆　福岡市立城香中学校校長、福岡市日本語指導教育研究会会長
吉岡辰実　教育センター指導主事
和田玉己　福岡市教育委員会日本語指導員

墨田区教育委員会：　小坂裕紀　教育委員会指導主事、
田畑美香　墨田区立吾嬬第一中学校校長
中島聡子　柳島小学校主任教諭（日本語教室担当）

国際教育センター（外部委員）：
近田由紀子　前浜松市立瑞穂小学校教諭（日本語教室担当）

国際教育センター：　榊原知美　講師　佐藤郡衛　教授
菅原雅枝　准教授　松井智子　教授
見世千賀子　准教授　矢崎弥生子　教務補佐（日本語指導員）
吉谷武志　教授　小島格（事務局）

発行者

東京学芸大学国際教育センター

（吉谷武志）

平成 25 年 3 月 20 日

平成24年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム(大学委嘱事業)・H24年5月

東京学芸大学国際教育センター(JSLカリキュラム普及事業)

連　携

墨田区教育委員会(担当課)

連　携

福岡市教育委員会(教育センター教員研修課)

研修の実施

墨田区	墨田区・福岡市	福岡市
在籍学級担任対象 (JSLカリキュラム実施者養成)	日本語指導中核教員対象 (JSLカリキュラム地方独自研修組織者養成)	日本語指導担当教員 (JSLカリキュラム実施者養成)
墨田区内で研修	国際教育センターで研修	福岡市内で研修

JSLカリキュラム教員研修プログラム試行(国際教育センターのプログラム提供)

研修①6月28日	研修①　5月12日、13日	研修①4月20日、21日
研修②7月30日	研修②6月23日学大、24日墨田	研修②7月13日、14日
研修③12月26日	研修③10月20日、21日	研修③11月30日、12月1日
検証・評価2013年2月17日 (墨田区・学大)	検証・評価2013年2月17日 (墨田区・福岡市・学大)	検証・評価2013年2月17日 (福岡市・学大)

最終・総合評価＋研修プログラム構築　H25年2月

JSLカリキュラム教員研修プログラム・完成・提案(成果物公開)　H25年3月末